

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごやか2)

事業所番号	O673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成 23年 9月 10日	開設年月日	平成 15年 9月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「*1ユニット目に記載」

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 23年 10月 12日	評価結果決定日	平成 23年 10月 31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活が続けていける事など、その人らしい生き方が実現される為に掲げた理念を何時も念頭におき、スタッフ全員が支援に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、子供みこし等、部落の行事への参加等で、一緒に楽しむ事が出来ている。又近隣の散歩コース等で、常に地域の方との触れ合いがあり、地域の一員として認められている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象にした、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方の理解を深めてもらう場の提供をし、より認知症の方の支援の方法も学んで頂く機会をつくった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に計画された会議は実行されている。テーマ毎に参加頂く関係者の方も、幅広く声掛けさせていただき、貴重な意見を頂いている。又会議記録は、職員会議等で報告し、全職員間で共有されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況報告や運営推進会議への参加等、常に連絡を取り合い、いい関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	施設内研修や、外部研修会等に参加し、研修報告を受け、全員が勉強している。利用者の状態に応じた、拘束をしないケアを実践する為、リスクについても、家族との話し合いを持ち、危険のないように対処している。時によっては、無断外出の危険を避けるため、玄関引き戸に、風鈴等の工夫で対応する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修や、外部研修で学び合い、虐待の広い意味の認識を再確認し、小さな、気付かないような虐待を起こさないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の状況に合わせ、必要な場合には、何時も利用できるように、制度の勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に、契約書、重要事項説明書を丁寧に利用者、家族へ説明し、不安がなく利用できるよう対応している。又、改定事項や、変更のあった時には、随時、文書で連絡を差し上げ、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家からの要望や希望は普段から、自由に意見が話される雰囲気づくりをしており、又運営推進会議でも、意見を出してもらっている。出来る事は実行している。ご意見箱も設置されているが、未だ、投書は無い。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や、提案は随時気付いた時に話せるように、配慮されており、速やかに検討し、反映できるようになっている。又職員会議等でも、意見の交換が出来る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の個々の努力に対し、勤務状況を把握し、評価を正しく認めてもらえ、結果を反映させてもらえる。資格取得に対しても、できるだけ、希望に沿うように対処してくれている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加に、出来るだけ配慮してもらい、研修報告も、全体会議で行い、一人一人の資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会や、ケアマネ協議会、介護福祉士会など、それぞれの主催による研修会等への参加により、全職員への研修報告で、情報の共有に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、本人・家族が、不安にならないように、ゆっくりと話を聞くようにし、施設見学の場合にも、安心できるように、案内をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時には、本人の思いと、家族の思いが違っている事もあるので、それぞれの思いをゆっくりと聞きサービスの利用を始める前に、キチンと理解できるように、対応している。施設として、出来ないこと等は説明し、理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に必要なサービスについて、担当ケアマネ・家族・本人と話し合いを持ち、本人の可能な能力を見極め、サービスを開始するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者からのことわざや、習わし等を教えてもらったり、又、家事手伝いを頂く事で利用者と、職員の関係はお互いに役だっており、いい関係ができています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならない程度の面会をお願いしており、面会時には、ホームの様子を出来る限り、お知らせし、家族の大切さをわかってもらうように支援しています。遠距離の家族に対しては、写真入りの手紙や、電話などで、交流を持ち、家族のきずなを大事にしています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人や、担当民生委員、又、ケアマネージャー等、入居前からのお付き合いのあった方々が気軽に訪問してくれて、語り合える環境を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のようにリビングで一緒に過ごす事で、職員の声掛けによって、助けが必要な利用者に対しての優しさや、支え合いなども見られ、決して独りで孤立する事のないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により、退居になった場合でも、家族と共に、退院後のサービス利用について、医療機関と一緒に相談に応じ、より良いサービスに繋げるように支援を行う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成にあたり、本人の思いが叶えられるように、検討し、本人の意志がきちんとならぬ場合には、日頃の表情や、しぐさ等から、好む事を把握し、プランへ反映させるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接時に、本人、家族からの聞き取りを丁寧にして、これまでの暮らしをしっかりと理解するようにする。又入居後でも、面会の友人達からも、今までの暮らしぶりについて教えて頂き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の身体的バイタルチェックだけでなく、職員間の申し送り記録などから、日々の状態を把握し、本人が出来る事への理解も踏まえ、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成については、本人や、家族からの希望を取り入れ、なにが、本人に必要なのかユニット毎のメンバーでプラン会議をもち、適切なプランを作成している。6ヶ月毎の評価会議を担当職員を主に開催し見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの気づき点を記した、申し送り記録簿の活用により、日々の変化の共有化を図り大きな変化のあった場合には、期間を待たずにプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館祭りなどの参加で得意な手芸作品の出展や地元ボランティアの三味線演奏などで民謡を楽しむなど定期的に訪問してもらっています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人の状況がわかる職員が通院の付添いをし、Drとの連携を密にしており、家族付添い時には、状況説明の手紙を持参してもらうなど医療機関との連携は良い関係となっている。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	代表が看護師であり、常に利用者の健康管理には、注意しており、一つ一つの小さな気づきも報告し、指示をいただいている。急変時の対応にも的確に対処し、医療機関との連携をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に対して、これまでの経過を施設より情報提供し、病状が安定し退院に向けての相談も家族と一緒に話し合いを持ち、受け入れが可能な限り対応している。又対応が難しい場合には、他のサービス利用に繋がるように、医療機関と共に検討するように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で状態の変化による場合の対応につき施設が対応できる範囲の説明をきちんと伝え、本人・家族が望む場合には、医療機関と協力しあい職員の信頼のもとに、終末までの利用を継続するように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生への対応についてのマニュアルをもとに全職員参加の学習会を開き、緊急に対応できるように努力している。又、事故発生時には、その都度、看護師である代表より指導をうけ、検討会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の参加も頂き、緊急連絡網による伝達訓練や、消火訓練を年2回実施している。実施にあたり、消防職員の指導を受け、避難誘導のみならず、動けない人の搬送訓練も計画している。又マニュアルによる研修も全職員が参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人情報保護条例」「守秘義務」の重要性について研修会を持ち、日常の関わりの中で個人を大切にしているか問いかけし、職員同士でもお互いに気付きの時は注意を促すように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つの介助をする時は必ず、声掛けし、意志の確認をするように心がけている。状況によっては、言葉だけでなく、身振りや、表情からの思いの汲み取りや、普段の様子からの、好みのサインを気付くように、対応し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間が長かったり、居室での臥床時間を多くとったりと本人の体調や、希望にあわせ、その日の過ごし方を個別的に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院の利用でパーマやおしゃれ染めをしたり、定期的にカットの出張サービスも受けそれぞれ皆さんが身だしなみに気を使いおしゃれができるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングに居ながら、調理中の香り等で、食欲をそそり、楽しい食事を職員と共に摂っている。利用者の嗜好は職員が把握しており、どうしても、食べられない物には、代替食を提供し、又個人の状況に合わせて、食事形態も工夫された支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、不足気味の場合には、栄養強化補助食品・飲料などの提供をする等の対応をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化されており、うがいの出来ない方への、対処方法も、工夫されて清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を基本に対応しており、排泄パターンも把握された支援を行っている為、日中の失禁はは少ない状況にある。夜間も個人の能力によっては、ポータブルトイレの居室内設置で、自立支援が出来る。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック記録により、2日間排便のなかった方には、意識的に、水分量や、食物繊維の多い食品の提供等で促すように対応している。腹部マッサージや、食後すぐのトイレ誘導や声掛け等も行い、気持ち良く排便が出来るように支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助時が、職員との大切なコミュニケーションとなったり、体調や、本人の希望に合わせた、入浴タイムとなるような支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のまどろみや昼寝も含めて、気持ち良く過ごせるような環境にあり、夜間の睡眠も清潔な寝具や照明、室温等を考慮して安心して眠れるように支援をしている。不眠気味で寝付かれない方には、温かい飲み物の提供や、夜勤職員の寄り添いで安眠を誘うような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が出る度に、職員間の申し送り記録で、全職員が、理解するように、徹底し、服薬介助時の誤薬防止に努めている。薬変更の場合には、特に、本人の状態の観察に注意するように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の皿拭きや、洗濯物干し・たたみ等の仕事を個人の能力に合わせ 張り合いを持って手伝っている。又、ソファに座っているだけでも、他利用者の見守りをしていて、声掛けで職員の役に立ってもらっている等、感謝の気持ちを伝え、喜びに繋げている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りの散歩を楽しむ方もおり、又、季節ごとのドライブや、レクリエーション等で外出支援を行っている。自宅への送迎支援で、家族との時間を過ごしてこられる方もいる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方には、個人で金銭を持っていただいている。職員付添いで買い物に出かける場合には、立替払いであっても、本人が支払えるような方法等で支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機の使用で、自室で家族との電話交流が出来る環境の配慮をしており、手紙の投函やあて名書きの支援等本人の希望をかなえられる支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング等には、季節感のある置物飾りや、トイレの表示も、判り易くしている。日差しを避けるカーテンや温度調節など、利用者の声を聞き、快適に過ごしてもらおうよう支援を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのサイズが、色々なサイズが配置されており、気の合った仲間同士2人でいたり、ゆっくり横になったりできており、思い思いに過ごせるようになっている。車椅子利用者も多いが、移動時のみを使用し、ソファに座りゆっくりして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員が思い思いに、本人の希望のもと、お部屋飾りをしてきている。家族との写真や、誕生日カード等も上手く活用し、居心地の良い環境作りになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同じ造りの居室の出入り口である為に、各入り口には、マスコット人形などの吊るし目印を付け、本人が間違え事のないように工夫している。		